

平成30年度入学試験問題
(推薦入試Ⅰ・社会人特別入試)

小論文

国際地域創造学部 国際地域創造学科
(昼間主コース・夜間主コース)

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

問 題

地域開発政策の歴史を研究する岡田知弘氏は、「持続的な地域づくり」に関する調査を行うため、岐阜県に県外から進出する企業と県内の地元企業の比較を行った。その結果、県外からの進出企業は地域経済への貢献度が低く、撤退率が高いのに対し、地元企業は県外からの進出企業の10倍の雇用を擁していることを発見した。理由として、第一に岐阜県では地域内分業が発達しており、県内に数多くの取引工場があること、第二に卸売小売業といった商業連関があり、ここでも多くの雇用を生み出していることを挙げている。

以下の文章は、岡田氏が岐阜県での調査後に訪問した長野県栄村での経験をまとめたものである。本文を読んだ上で、以下の問いに答えなさい。

非公開

非公開

- 注 1 第三セクターとは、地域開発、都市づくりなどのため、国または地方公共団体と民間企業との共同出資によって設立された事業体のこと。
- 注 2 準公共的とは、ここでは、栄村の酒屋が村役場のように公的サービスも担っていることを説明する表現として使用されている。
- 注 3 協同組合とは、サービスの利用者が所有し、みずからの利益のために運営する団体のこと。
- 注 4 NPO (Non-Profit Organization) とは、営利を目的とせず公益的な市民活動を行う民間団体のこと。

(岡田知弘, 『一人ひとりが輝く地域再生』, 新日本出版社, 2009 年, 52~55 ページ, 本文および図を抜粋・一部改変)

問 本文および図 1, 図 2 を参考にしながら、「地域内再投資力」という言葉の意味とそれに対するあなたの評価を示したうえで、「持続的な地域づくり」について、あなたの考えを 1000 字以上, 1200 字以内で述べなさい。

平成30年度入学試験問題
(推薦入試Ⅰ・社会人特別入試)

小論文

国際地域創造学部 国際地域創造学科
(昼間主コース・夜間主コース)

出題の意図

国際地域創造学部は、地域性と国際性を合わせた複眼的思考によって「地域振興」、「産業振興」、「文化振興」に貢献できる人材の育成をめざしている。国際地域創造学科がアドミッション・ポリシーで明らかにしている諸能力のうち、現代の地域社会をめぐる多様な課題に対する関心度、自身の感性と経験を社会に還元する態度を小論文によって総合的に判断する。

この資料は、グローバル化の進展にともなって登場した海外市場に依存した経済構造が、日本の地域社会の経済的疲弊を招いている状況とその打開策について論じたものである。著者は、「持続的な地域づくり」を軸とし、従来、地方経済を潤すと考えられてきた大企業の誘致や中央政府からの公共事業受注とは異なる、「地域内再投資力」という概念を用いて、外部資本に依存しない新しい経済循環の有効性を説明している。他者の意見を受け止めて理解しようとする柔軟性および情報処理能力、課題発見および解決に向けた発想力、論理的思考力等を問う出題となっている。本文の趣旨を踏まえた上で、「持続的な地域づくり」について、論述できる能力が求められる。